

安全保障法制 国民の理解がすすむほど 反対の世論が盛り上がっています！

安倍首相は「**集団的自衛権は、限定的な行使に限られる**」と言っています。

→しかし、「海外派兵禁止」とは、条文のどこにも書かれていません。何が「限定的」なのかもさっぱり分かりません。結局、時の政府の判断に任されて、集団的自衛権の行使(海外派兵)は自由だということでしょうか。

安倍首相は「**例外的な、必要最小限度の武力行使に限られる**」と言っています。

→しかし、一方で「国際情勢によって必要最小限度は変わる」と答弁しています。また、何が「例外」なのかも条文には一切書かれていません。結局、海外派兵は何の制限もなくどこまでも拡大していくのではないのでしょうか。

安倍首相は「**後方支援は『戦闘行為が発生しないと見込まれる場所』に限って行う**」と言っています。

→しかしこれも条文には書かれていません。そもそも、「後方支援」は「兵站(へいたん)=武器や食料の移送」といって、立派な戦闘行為です。アフガン、イラクの両戦争では、兵站従事の米軍の戦死者が3,000人を超えています。戦闘地域の中に日本だけの勝手な解釈で「非戦闘地域」ができる??これはまさしく詭弁です!!

安倍首相は「**憲法の枠組みの中で・・・**」と言っています。

→磯崎庸輔首相補佐官が「法的安定性は関係ない」と、つい本根を漏らしてしまいました。(氏は発言の撤回をしましたが、)憲法九条の歯止めなど初めから無視しているのではないのでしょうか。



安倍首相は「(中国や北朝鮮を例に挙げて)**安全保障環境の変化を強調し→切れ目のない法整備で平時から抑止力を**」と言っています。

→「尖閣列島」や「竹島」の領有権問題で両国の「脅威」を煽るように宣伝していますが、何が「変化」したのか、具体的な内容を説明していません。そもそも、軍事に対して軍事を構えるのではなく、憲法九条に基づいた平和外交戦略こそが日本の取るべき道です。

2015年7月1日から12日まで小川町図書館で、今年の戦争展を行い、700名を超す来館者を迎えることができた。

例年通り1月から8回の準備会(実行委員会)を開き、オール手作りの見ごたえのある展示品で、会場を飾ることができた。今年は、例年になく、東京、毎日(左の写真)、埼玉の各新聞が写真入りで大きく取り上げてくださり、さらにNHKの取材があり、TV、ラジオで放送され、東京、横浜、千葉等遠方より多くの来館者があったことは特筆に値する。

また、今、国会で、安保法案の審議が行われ、戦争への関心が深まり、世論も沸騰している時でもあり世間の注目を浴びたようだ。ただ、地元の公務員を初め、町民の足が遠かったように思われることは、反省材料である。今年は地元の心ある名士の方々に「呼びかけ人」になって頂いたが、さらにしっかり地元を根を張った戦争展にしていかなければならない。

戦争の悲惨さを訴える努力は続けていきたい。この、九条の会の「九条だより」も若者に親しまれ、読まれるような記事を多くして、憲法の「非戦」の心を広げていきたい。



ご案内 映画「日本と原発」上映会

1953年、国連総会で「原子力の平和利用」が世界に発信されて以降、「夢のエネルギー」として国を挙げて取り組んできた原子力発電。<夢のエネルギー開発が明るい未来を創る>。これを信じ、原発の安全を信じてきた私たち。

でも、その夢は2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所の、発電史上最悪の事故によって、無残に砕かれることになりました。

この映画は、弁護士河合弘之と盟友弁護士海渡雄一、訴訟を共に闘う木村結の3人が多くの関係者、有識者にインタビュー取材を行い、現地での情報収集や報道資料等を基に事故に巻き込まれた人々の苦しみ、原発事故を引き起こした背景、改善されない規制基準、エネルギー政策のウソと真実を追求したドキュメンタリー映画です。

この「日本と原発」を小川町で上映することになりました。お誘い合わせてお出かけください。

日時: 8/29(土) 1:30~4:00 (1時開場)

会場: 小川町図書館視聴覚室

主催: 生活クラブ生協埼玉(小川・寄居支部共催)

上映協力券: ¥500 お問合せ: 高橋優子(Tel.090-4453-6355)



安全保障法制！？ その2 → ちょっと待った！



「だれの子どもも、ころさせない」

この思いを持った、すべての人と、渋谷で集まり、声をあげましょう！ 強行採決にめげるようなわたしたちでは、ありません。「安保法案に反対するママの会」2,000名のパレード（7/26）



わたしは、戦争で奪った命を元に戻すことができない。空爆で破壊された街を建て直す力もない。大切な家族を奪われた悲しみを、わたしはこれっぽっちも癒せない。自分の責任の取れないことを、あの首相のように『わたしが責任を持って』とか、『絶対に』とか、『必ずや』とか、威勢のいい言葉にごまかすことなんてできません



7月15日大阪・梅田駅前で行われた戦争法案反対の集会（主催は、10～40代の市民でつくるSADL（サドル＝民主主義と生活を守る有志）と、関西の学生によるSEALDs KANSAI（シールズ関西＝自由と民主主義のための関西学生緊急行動）。での女子学生（寺田ともかさん）のアピールがものすごい勢いでシェアされているようです。動画再生は18万回を超えています。9分たらずの短いものですが、主張すべきことを過不足なく言っていて、なかなかすばらしいです。ネット環境をお持ちの方は「寺田ともかスピーチ」で検索してください。動画や全文をご覧ください。

総会

おがわ町九条の会第10回総会のご案内

下記により定期総会を開きます。お誘い合わせてお出かけください。

日時：9月26日（土）午後1:30～

会場：小川町図書館大会議室

戦争させない
子どもをまもる
戦争させない
おとなもまもる

ママは戦争しないときめた
パパも戦争しないときめた
みんなで戦争しないときめた
70年間きめてきた

戦争の道具つくるのやめよう
戦争の理由つくるのやめよう
誰の子どもも殺させない
(パレードの中でコールされた言葉です)



に反対する高校生らが8月2日、東京・渋谷でデモを行った。制服姿の参加者もあり、約5千人（主催者発表）が軽快なリズムにあわせて「民主主義ってなんだ」と声を上げた。主催したのは、高校生らが立ち上げた「ティーンズソウル」。大学生の団体「SEALDs（シールズ）」の活動で顔見知りになり、「選挙権が18歳に下げられる中で、高校生も自分らしい言葉で意思表示したい」とSNSを通じて集まった。友達を誘って参加したという都立高1年の古川はすさん（15）は「人の命を左右することなのに、国民の意見を聞かずに決められてしまいそうで納得いかない」と話した。渋谷では2日、保育士らの団体が主催するデモもあった。（朝日新聞8/3）



公明党の支持母体である創価学会の会員の中に、安全保障関連法案（戦争法案）に反対する動きが広がりつつ

あります。facebookには、公開グループ「創価学会員だけど自民が大嫌いな人、団結しましょう。」が作られ、東京や大阪のデモでは創価学会の3色の旗に「ファシズム反対」などの文字を書いたプラカードを掲げて歩く人が出てきています。



7月15日、「安全保障法案」が強行採決されてから1月、国会周辺はもとより、全国各地で「戦争法案反対」「戦争は絶対許さない」の様々な取り組みが連日行われています。今回ここに載せたものは、その中のほんの一部です。HNKのニュースなどはあまり取り上げていません。（このことに対する抗議デモもNHKを囲んで行われています。）ぜひインターネット環境をお持ちの方は「戦争法案反対デモ」と検索してください。

たったこの数年で、「デモ」が街の風景として当たり前になってきました。本来 人前で、自分の意見を言うこと、伝えようとするは憲法に保障された自由な行為です。今、私たちは、そういうカルチャーを、ようやく自分のものにしつつあるのではないかと思います。

そして、これは、もう後戻りしないでしょう！